

京の川床

橋本 弓

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)

京都ほど、川そのものがコミュニティの場となっている地域はない。淀川の河川敷でもときどき若者が集まっているところを見かけるが、せいぜい1組、2組と言ったところだ。対して鴨川には「鴨チル」という言葉が存在する。鴨川で chill out (のんびりする) という意味で、若者を中心に使われている。こういった造語が作られるほど、鴨川は若者にとっても身近な存在だ。鴨チルと称して友人らと鴨川沿いで缶チューハイを飲むことも勿論好きだが、私は特に京都の夏の風物詩「川床」が好きだ。

【川床の歴史】

応仁文明の乱など長い戦乱が終わり、豊臣秀吉によって平和な時代が訪れた。秀吉による三条や五条橋の架け替えなどを経て、鴨川の河原は見せ物や物売りで賑わう。それに伴い、裕福な商人たちが河原に見物席を設け、茶会ができるようになった。これが納涼床の始まりだ。江戸時代に入ると石垣や堤が整備され、付近に花街も形成されるなどして歓楽街となった。祇園祭の神輿洗いでは見物客で大変賑わったという。



江戸時代中期、鴨川に沿いには 400 軒を超える茶屋が溢れ、床机の数を定めるなど、組織化も進んでいた。当時の床は浅瀬に床机を置くものや、張り出し式や鴨川の砂洲に床机を並べたもので、「河原の涼み」と呼ばれる文化が生まれた。



明治時代になってからは祇園会（祇園祭）の行われる 7・8 月に床を出すのが定着し、鴨川の右岸・左岸両方に床が出ていた。両岸は高床式の床、砂洲は床机、三条大橋の下には河原から張り出した床が出ていたようだ。その後河川の改修や電車の

延伸などによって、現在と同じ西側（右岸）だけの川床となっている。

第二次世界大戦によって床は完全に姿を消すが、昭和 26 年、京都府会議で通達が出され復活を遂げる。昭和 28 年に鴨涯保勝会が結成された当時の納涼床は 30～40 軒。現在は倍の 100 軒近くを超える。



川床は「鴨川納涼床」だけでなく、「貴船の川床」「高雄の川床」があり、それぞれ違った風情を堪能することができる。

～京の奥座敷「貴船の川床」～

叡山電鉄に揺られて貴船口駅へ。貴船神社に向けて少し歩くと、20軒ほどの店が床を



並べている。貴船で納涼床が始まったのは、大正時代ころからだと言われ、鯖街道の休憩場所として料理を提供したことが始まりだ。清流貴船川のせせらぎと、自然を間近にして京料理や流しそうめんが楽しめる。体感気温は京都中心より10度も低いと言われ、より一層さわやかな空気に包まれ、新緑の渓谷美を堪能できる。

～渓谷美の里「高雄の川床」～

京都市内より気温が3～5度低く夏の別天地として知られる高雄。清滝川に張り出すように一段高い位置に建てられた床で屋根があるのが特徴。天然鮎、京野菜など旬の食材を使った川床料理を楽しむことができる。また6月中旬から7月中旬頃まで、天然記念物の源氏ぼたるも見ることができる。緑あふれる自然美を体いっぱいを感じながら京料理を賞味する、高雄ならではの「床」プランを堪能できる。



京都の夏はとても暑いと言う。京都市域の気象は夏に雨が多く、冬には少ないという「瀬戸内式気候」と、三方を山に囲まれていると言う地形的特徴から、寒暖の差が大きい「内陸性盆地気候」との両面を特徴としている。また、盆地地形のため年間を通じて風が弱いと言う特徴がある。夏の雨による湿気を動かす風が弱いことから、日本一暑いのではないかと囁かれるのも納得だ。

川床には、暑い京都の夏を涼しく過ごそうとした京都人の知恵が詰まっている。川床を訪れると、確かにその涼しさを実感することができる。しかし現在と川床誕生時代の圧倒的な違いは室内での冷房が登場していることだ。川床の涼しさは圧倒的ではない。「本床」と呼ばれる6～8月の夜の川床は、座っているだけでじんわりと汗をかいた。それでも川床は毎年大いに賑わっている。その賑わいから、伝統を守り続けたいと願う

京都人の想いをひしひしと感ずることもできる。しかし私はそれだけではないと思う。学生の町・京都と謳われるだけあって、京都には様々な地域の大学生がいる。彼らも頻りに川床を利用しているが、私と同様に伝統に対する想いでいっぱいではないように感じる。しかしなぜか、室内より蒸し暑いはずの川床に魅力を感じてしまう。夏になったら川床に行こうと思うのだ。春が訪れると桜の下でお花見をするのが日本人の心をくすぐるように、夏の川床もまたそういうものなのかもしれない。ぜひ夏の京都では川床を楽しんでほしい。

▽参考文献

<https://blog.pokke.in/kawayuka/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%8D%E6%B6%BC%E5%BA%8A>

<https://www.kyoto-yuka.com/about/history.html>

<https://www.sumakou.com/concept/kyoto/>